

OPINION

ナビゲーター

このコラムでは、スイスは観光地として好ましいだけでなく、欧州地域本社やグローバル本社、そして研究開発拠点としてビジネスを行ううえでも興味深い場所であることを要約してきました。観光地としてのスイスは、世界中に

5月16日から開始されたスイスから日本への期待は、今回と次回とで総まとめになります。10回をこえる連載となりましたが、記事の一部分でも皆さまのご期待に沿い、お役に立つものがあつたら幸いです。

日本への期待 世界各地から

其
14

永続的な友好関係のために

知れわたっています。しかしビジネス展開でも、日本の中堅・中小企業にとって、ご紹介したような文化の違いさえ考慮すれば、事業展開が可能な道があることを示してきました。とはいえ、はっきり好ましい制度的な枠組みがあるにもかかわらず、大手企業を除くとそれを利用する企業が少ないことが不思議でなりません。

スイスと日本の友好関係は非常に古く、そして発展的に経過してきました。なんと1

日本とスイス

864年の「修好通商条約」の締結に始まり、公使館の設置につながり、さらに1916年に大使館を設立して恒久的に、それ以来、友好関係の拡大が継続してきました。ジェトロ(JETRO)、日本貿易振興機構)はずっとジュネーブに事務所を置いてきました。スイスの中小企業を支援し、海外との貿易を促進する中心的な役割をはたし、各種のサービスを提供するスイス・グローバル・エンタープライズは東京に「スイスト」

864年の「修好通商条約」の締結に始まり、公使館の設置につながり、さらに1916年に大使館を設立して恒久的に、それ以来、友好関係の拡大が継続してきました。ジェトロ(JETRO)、日本貿易振興機構)はずっとジュネーブに事務所を置いてきました。スイスの中小企業を支援し、海外との貿易を促進する中心的な役割をはたし、各種のサービスを提供するスイス・グローバル・エンタープライズは東京に「スイスト」

億3600万スイスフランです(注1、次回に出所を明示)。現在、日本ブランド製品の多くは日本からの直接輸入ではありません。第三国、とくにEU諸国から輸入されているため、上の輸入額の素データは取引の重要さを控えめにしか表現していません。例えば、スイスで販売されているスズキ自動車はハンガリーで生産されるため、ハンガリーからの輸入金額として計上されます。だからといって、このような状況下でも、すべてが順調というわけではありません。最近の調査(注2、次回に出所を明示)によるとFTAが発効し、スイスの自動車輸入業者が幅広く利用するにもかかわらず、2国間の貿易のかなりの割合で依然FTAを利用していないことが明らかになっています。チヨコレート、食品、有機化学製品・薬品などに代表されるスイスの輸出品の6%がいまだ関税対象となり、年間約1100万スイスフランの関税が納められています。日本からの輸入品の60%以上、主に食品、金属製品、工作機械、乗用車類に対して、年間700万スイスフランの関税額となっています。

【スイス ルジェロ・ウィズレル、リーム中産連】
(月曜日に掲載)